

所 員

〔専任教員〕

細川 周平 HOSOKAWA Shuhei

役職：所長

専門：日本音楽史

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHI Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

田鍬 智志 TAKUWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

齋藤 桂 SAITO Kei

役職：講師

専門：音楽学・日本音楽史

〔客員教授〕

金剛 永謹

〔非常勤講師〕

鈴木 堅弘 SUZUKI Kenko

担当：特別研究員

専門：日本文化論、日本芸能史

根本 千聡 NEMOTO Chisato

担当：特別研究員

専門：音楽学・日本音楽史

光平 有希 MITSUHIRA Yuki

担当：特別研究員

専門：日本音楽史・音楽療法

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

〔非常勤嘱託員〕

齊藤 尚 SAITO Hisashi

担当：学芸員・司書

森 万由美 MORI Mayumi

担当：司書

〔異動のお知らせ〕

2025 年 3 月、退職

光平 有希（特別研究員）

2025 年 4 月より新任

荒木 真歩（特別研究員）

〔客員研究員〕

上野 正章 UENO Masaaki

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

研究課題：「①日本伝統音楽における楽譜への書き込みから見る伝承について―民族雅楽と近代謡曲の比較研究 ②日本伝統音楽研究センターにおけるプロジェクト研究及び共同研究への参加」

受入教員：田鍬智志

遠藤 美奈 ENDO Mina

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

研究課題：在外琉球関連楽器群に関する研究

受入教員：武内恵美子

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

研究課題：近代日本音楽の音声資料に関する研究

受入教員：竹内有一

神津 武男 KOZU Takeo

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

研究課題：人形浄瑠璃文楽の近世期上演記録データベースの試用版作成公開と典拠資料の調査と研究

受入教員：竹内有一

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

研究課題：「音曲伝書の体系的研究」とプロジェクト研究「祝言の音・声・音楽」

受入教員：藤田隆則

多田 純一 TADA Junichi

2024年4月1日～2025年3月31日

研究課題：近代日本における西洋音楽受容および国産自動ピアノに関する研究

受入教員：齋藤桂

出口 実紀 DEGUCHI Miki

2024年4月1日～2025年3月31日

研究課題：『龍笛要録譜』の研究

受入教員：田鍬智志

丹羽 幸江 NIWA Yukie

2024年4月1日～2025年3月31日

研究課題：室町期の謡の旋律法の研究と能の復曲活動

受入教員：藤田隆則

平間 充子 HIRAMA Mitsuko

2024年4月1日～2025年3月31日

研究課題：平安時代前期の儀礼と音楽・芸能：日中比較と宮廷内秩序の視点から

受入教員：武内恵美子

福本 康之 FUKUMOTO Yasuyuki

2024年4月1日～2025年3月31日

研究課題：近現代日本仏教界における聲明と仏教洋楽の関係と変化とについて

受入教員：武内恵美子

毛利真人 MORI Masato

研究課題：サントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」2023年度採択課題としてレコード袋（スリーブ / エンヴェロープ）の分析を基礎とした戦前日本のレコード産業史及び商業史研究

受入教員：齋藤桂

〔共同研究員〕

計66名（所員を除く外部研究員）。

氏名・所属先等は「活動報告1」に掲載。

委託研究

テーマ1：倉田喜弘氏旧蔵 墓碑資料の考証と目録作成

委託先：神津武男

担当者：竹内有一

（研究の目的） 東京在住の芸能史研究家、倉田喜弘氏（故人）が所蔵し、現在日本伝統音楽研究センターに仮保管されている「倉田喜弘旧蔵資料」を整理分類し、そのデジタル化を行うことによって、資料の保存と活用をはかり、学術研究に寄与するための公開準備を整えることを目的とする。

（研究対象資料） 令和5年度委託研究によって、「倉田喜弘旧蔵資料」の中に、伝統芸能実演家の墓碑資料が多数含まれることがわかった。数十名におよぶ墓碑を倉田氏が撮影したとみられる写真（ポジ、ネガ）、倉田氏自筆メモなどである。神津氏によれば、収集点数が多い点、現存しない墓碑が少なくない点で資料的価値が非常に高いという。このため、「倉田喜弘旧蔵資料」の内、一連の墓碑資料を研究対象資料として、実演家の経歴研究に際しての貴重な研究資源を整えることを目指すものである。

（委託内容、委託先） 上記研究対象資料、すなわち倉田資料のうち墓碑資料について、内容考証ならびに目録の作成を委託する。神津武男氏を委託先とする。

テーマ2：倉田喜弘氏による新聞収集の傾向把握と目録作成

委託先：小西志保

担当：竹内有一

（研究の目的） テーマ1と同じ

（研究対象資料） 「倉田喜弘旧蔵資料」のうち、倉田氏が分類整理した新聞・雑誌資料を研究対象資料とする。令和5年度委託研究によって、「倉田喜弘旧蔵資料」が95箱のダンボールに収納されていること、倉田氏がテーマごとに収集整理した新聞・雑誌のコピーが全体の8～9割を占めていること、収集された新聞社は130に及ぶこと（以上、令和5年度委託研究

の小西氏「研究報告書」)、また、収集された分野は、古代から近現代まで古典芸能・伝統音楽のあらゆる時代と分野にわたること(同「倉田資料概観一覧」)などが判明した。同時に、ダンボール内の全資料を原装の分類(倉田氏がテーマごと紙袋等に詰めた束ね)のまま透明ポリ袋に収納し直す作業を進め、箱ごとの概要を「倉田資料概観一覧」に記録したが、個別の収集テーマを書き写すことは時間と費用の制約でできなかった。また、昨年度委託研究で提言を受けたように新聞資料のデジタル化には事前に連携機関と協議すべき課題も多い。よって、これらの資料を研究者の認知活用につなげるため、袋詰めされた新聞資料および袋に倉田氏が書き込んだテーマ・見出しを目録化することが、まず必要である。

(委託内容、委託先) 上記研究対象のうち、倉田氏が自ら分類整理した新聞・雑誌資料について、データベースソフトウェア「桐」を用いて目録を作成する。目録項目は、倉田氏が記述した見出し・テーマ・分類等のタイトル、考証タイトル、内容・キーワード、資料種別、年月などとする。小西志保氏を委託先とする。

図書室

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展覧などもおこなっています。(資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等)
- ・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

(2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

- ・本学の教職員(非常勤を含む)／学生
- ・調査研究のために利用を必要とされる方

(3) 開室日時と休室日

- ・開室日時 毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時
- ・休室日 月・火・土・日曜日、
「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上

の必要期間

- ※その他、必要に応じて、休室することがあります。
- ※学外の方の利用は予約制となっています。申込方法等、詳細についてはお尋ねください。

(4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・複写サービスは行っていません。

○視聴

- ・当室所蔵の CD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

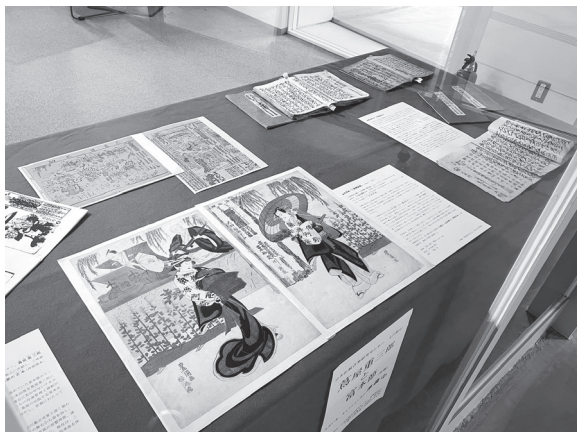
- ・毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

○その他

- ・本学教職員(非常勤講師を含む)及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化と web 公開

- ・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。
- ・2024 年度の図書室について
- ・2024 年 10 月 16 日(水)から 11 月 28 日(木)まで、伊藤記念図書館(附属図書館)と伝音図書室の合同企画「クイズラリー」を開催しました。この企画は本学学生・教職員対象で新キャンパス移転後の利用促進のために行われました。問題用紙に附属図書館および伝音図書室に関する問題が各 3 問ずつあり、各所を巡って回答する形式で行いました。全問回答者には特製マグネットを進呈しました。附属図書館は利用しても伝音図書室までは足を運ばないという利用者に伝音図書室を知ってもらう機会となりました。



・2025年2月3日（月）から7月まで、伝音図書室プチ展示コーナー「蔦屋重三郎と富本節」を開催しました。

この展示では2世富本豊前太夫の歌舞伎出語りを描いた錦絵と、蔦屋重三郎が出版した富本節正本（青表紙稽古本）に焦点をあてました。蔦屋と豊前太夫が音楽史、日本文化に果たした影響の大きさを再認識していただけるような展示としました。

プチ展示コーナーは今後も企画展を開催していく予定です。